

ゆめ木風2 児童発達支援事業所自己評価結果(公表)

公表日:令和4年3月15日

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7		仕切りや棚・机の配置に工夫している。また、ロビーもあるので状況に応じて使用している。
	②	職員の配置数は適切であるか	7		基本数2+加配2の配置数。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	1	ニーズに合わせて設備などを適切に配慮していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の環境に合わせた空間になっているか。	6	1	建物構造上の問題もあるが、出来る範囲で子ども達の環境に合わせた空間作りに改善出来る所は今後改善していく。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	7		申し送りや職員会議を行い職員が参画をしている。パート職員にも情報共有、周知できるよう改善に繋げていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7		ホームページ上で公開、定期的に更新し、職員は全員把握し業務改善につなげていく。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7		ホームページ上で公開し、定期的に更新している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5	2	これから第三者による外部評価も行い、結果内容について話し合い業務改善につなげていけるようにする。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7		定期的に外部研修はリモートで参加できるようにしている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7		保護者を含めて会議を行い、ニーズに合わせた上で職員間での支援会議を行い、計画を設定するようにしている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7		子ども達の特性の把握に理解する努力はしているが、もっと具体的にアセスメントツールを使用し今後の支援にいかせれるようにしていく。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7		「家庭支援」「地域支援」について支援計画の項目設定を行う。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7		支援計画に沿った支援ができているか、また把握できるよう個別支援経過表に支援計画を一緒に閉じ、見直しができるようしている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7		職員会議等定期的に行っており、職員全員が参画できている。

	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7		固定化しないよう地域情報を検索したり、アイデアを出し合って工夫している。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	7		子どもの状況に応じて個別と集団支援を行っている。計画作成もほぼ出来ている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7		職員間で話し合い、確認し合うようにしている。その日の利用する子ども達に対して注意点や支援内容の確認や情報共有できるよう努力している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7		終礼にて情報を共有するようにしているが、出来ない場合は職員用連絡ノートに記載して工夫している。それでも抜けはあるので徹底していく。
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7		その日に記載ができていない事もあるので、翌日には記載するよう徹底し、モニタリングや支援会議で活用している。
	⑳	定期的にモニタリングを行い児童発達支援計画の見直しを判断しているか	7		定期的にモニタリングを行っている。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7		ふさわしい者が参画している。ほぼ児発管が参画しているので状況に応じて児発管と職員も参画できるようにし、質の向上に向けていきたい。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	7		関係している機関との連携を図っている。また、見学できる場所は積極的に働きかけている。
	㉓	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			該当児がいない。
	㉔	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			該当児がいない。
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7		幼稚園等に見学に行かせてもらったり電話、送迎時など支援内容の情報共有や相互理解を図っている。
	㉖	小学校や特別支援学校(小学部)との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7		小学校には事前に電話、訪問するなどして情報共有と総理解を図れるよう努力に努めている。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7		他事業所や関係機関との連携を図り、助言をもらったり研修を受けるようしている。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0	7	コロナ禍で交流は控えている。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	0	7	コロナ禍で参加できていないのが現状である。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7		送迎時、連絡帳、電話等で連絡を取り合い共通理解が持てるよう努めている。

保護者への説明責任等	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	7		コロナ禍で集団での開催は困難であるが、個別に応じて対応はさせてもらっている。
	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7		契約時に丁寧に説明するよう心掛けている。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	7		児童発達支援計画内容の説明を行い、同意を得ている。
	③④	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7		保護者の気持ちに寄り添い適切な助言ができるよう努めている。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7		保護者会の開催しているが、父母の会の活動支援は今年はコロナ禍で出来ていないのが現状である。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7		保護者からの相談や申し入れがあった場合は、迅速に対応できるよう努めている。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7		毎月活動報告や行事、連絡帳などで発信している。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	7		個人情報の取り扱いに関しては契約時に保護者に対して丁寧に説明をし、十分注意している。
非常時等の対応	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7		子どもの特性を把握し、保護者に対してもコミュニケーションを普段から図り情報伝達ができるよう努めている。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	7		コロナ禍で難しい環境である。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7		訓練は実地しているが、保護者への周知ができていないので今後周知していく。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7		行っている。
	④⑬	事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7		確認は行っているが、てんかん発作などは定期的に保護者から確認していきたい。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7		対象児がいないが、今後アレルギーのある子どもは医師の指示書をもらうようにしていく。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7		ヒヤリハット事例があった場合は、職員全員把握し今後の対策をしっかりと話し合っている。
④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		虐待防止研修を受けている。内部研修も行い、適切な対応が職員全員にできるよう努めている。	
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	7		該当児がいない。	